



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校

令和4年 3月17日

150年の節目、確かな成長…

校長 菅原 透

令和3年度。忘れられない出来事が、盛りだくさんの一年になりました。

まずは、何といても本校創立150周年の大きな節目。地域の皆様による実行委員会の絶大なるご支援のもと、記念式典、記念事業、記念誌発行が行われました。荒砥・十王・鷹山地区に支えられた“荒砥小学校”が、これまでの伝統をもとに、新たな一步を踏み出しました。

次に、東京オリンピック。白鷹町の聖火リレーが、荒砥小学校を終着点として行われました。感染予防のために、本町児童生徒を代表する形で、琢磨っ子だけが、直接体験することができました。赤々と灯る聖火が目の前に現れた瞬間、言葉では表せない感動を覚えました。

また、白鷹町学校研究発表会会場校として、町内の先生方の勉強会が行われました。「主体的に考え、学び合う子どもの育成」を主題にした本校研究を、1年生、6年1組、なかよし学級が代表して授業提供しました。一生懸命授業に臨む子ども達をたくさん誉めていただきました。

そして、コロナ禍2年目となる教育活動。1年ぶりの水泳、2年継続して午前開催の運動会、当該学年保護者だけを入れた学習発表会、県内に行先を変更しての修学旅行…。感染しない、させない配

慮のもと、子ども達の笑顔を生むべく、最大限工夫してすすめてきました。

規模を縮小して、あるいは集まらない形で行ったものも…。6年生に感謝する会は放送を通して。5年生の歌声に、6年生が涙したことを聞きました。今年の卒業式は4年生以上で行うことになりました。そのため、1～3年生は、6年生を昼休みに体育館に招き、サプライズで感謝の思いを伝える会。できそうなことをできそうなタイミングとできそうな企画で行うことができました。

様々なストレスを抱える中、6年生は見事な成長ぶりを見せてくれました。何事にも、元気に、そして本気に取り組めるようになり、リーダーとしてみんなのあこがれ、めあてになりました。在校生も大変な状況に直面しながら、がんばり切りました。あいうえお名人も育っています。これも、伝統のなせる業でしょう。今後、創立151周年の伝統を創る担い手として、一層輝いてくれるはずです。

明日は卒業式。6年生の晴れ姿、一抹の寂しさとともに、大いなる期待をもって臨みます。

皆様よりのご支援に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



6年生 最後の掃除